

第2回 横浜市港北区民文化センター指定管理者選定評価委員会 議事録	
日 時	令和4年12月20日(火) 13時15分～17時15分
開 催 場 所	港北区役所4階1号会議室
出 席 者	間瀬委員長、岡委員、川島委員、小堀委員、村上委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	一部非公開(傍聴者5人) 議題1は、応募団体関係者については、他の応募団体の面接審査についても非公開
議 題	1 応募書類及び面接審査について(公開) 2 指定候補者及び次点候補者の選定について(非公開) 3 その他(非公開)
決 定 事 項	横浜市港北区民文化センターの指定候補者に「港北結マネジメント」を、次点候補者に「神奈川共立・日本管財共同事業体」を選定し、港北区長に報告する。
議 事	<p>1 開会</p> <p>事務局より、委員の定足数の確認を行い、「横浜市港北区民文化センター指定管理者選定評価委員会運営要綱」第7条第3項の規定により、委員会が成立していることを報告。</p> <p>2 事務局説明</p> <p>事務局より、次の通り説明があり、委員会の了承を得た。</p> <p>(1) 応募者について 応募者は3団体のため、応募書類及び面接審査は、団体名を伏せて実施する。</p> <p>(2) タイムスケジュールについて 3団体の面接審査、審議、選定の順に行う。</p> <p>(3) 評価について 評価基準項目1から6までは、5段階で評価する。配点が10点、20点の項目の場合は、5段階評価した点数に係数をかけて計上する。</p> <p>(4) 指定候補者、次点候補者の選定方法について 委員の評点を合算して総合評価を行い、その合計点が最も高い応募者を「指定候補者」とし、次に高い応募者を「次点候補者」とする。</p> <p>(5) 最低基準点について 最低基準点は、加点要素を除いた委員点数の合計1,075点の60%、645点とする。</p> <p>3 応募書類及び面接審査について</p> <p>(1) 団体A</p> <p>ア プレゼンテーション イ 質疑応答 (委員) 館長及び舞台チーフの指定期間中の配置換えはあり得るか。 また、地域コーディネーターについて、その役割と、指定期間最終年にはお</p>

ける目標人数を伺いたい。

(団体) 館長及び舞台責任者は館の代表的な存在と考えているので指定期間を全うできる人物を配置したい。ただ様々な事情により途中交代の可能性も否定できないが、その場合も十分な引継期間を設けることや、当事業体にはバックアップ体制が整っているのご安心いただきたい。

地域コーディネーターの役割として、地域の方々とコミュニケーションを取る中で施設にどのようなことが求められているのかを把握するのが第一歩だと考えている。地域の方々に教えていただき、学んでいくことから始めて、地域の中で文化芸術のコーディネーターとなるような方々を育成していきたい。具体的な目標人数を示すことは難しいが、まずは指定期間中、様々な分野の方々を育成していきたい。

(委員) 文化芸術を担う人材を育成、ボランティアを育成していくとのことだが、経験のある他施設での状況を伺いたい。

(団体) ボランティアについては、公演の単なる手伝いだけでなく、イベントの企画やアウトリーチ先での地域の方々との触れ合いということも含め募集を行っている。他の施設では、アウトリーチ先へ出ていき、共に企画を検討している事例もある。港北区においても、最初は公演の手伝い等から始まるかと思うが、その先には共に企画を検討し、運営するまで行いたいと考えている。

(委員) 港北芸術祭とのすみ分けについての考えを伺いたい。

(団体) 港北芸術祭をはじめとして港北区は文化芸術活動が盛んであり、ふるさと港北ふれあいまつりなど既に実施されている事業も多数ある。そこに割り込むというのではなく、その方々のニーズをお聞きしながら、何を提供できるのか探ることから始めて、共に発展していく活動ができればと考えている。

(委員) 代表団体の業績表の中より、臨時人件費、外注人件費、外注費について伺いたい。また、外注人権費より外注費の発生額が上回っているところ、それが逆転している時期があるがその事情は何か。

(団体) 臨時人件費は固定人件費ではなく突発的に業務が発生した際の人件費、外注費は外部会社への業務依頼経費、外注人件費は人を借りる費用。社内改革や内部組織改正等、一新していく中で、外注費が減っていく傾向になった。

(委員) 例えば専門的な公演の際は、公会堂では舞台照明等の専門スタッフを外部に依頼して実施している。区民文化センターでも同様に、外部から照明スタッフ等を連れて来ても大丈夫なのか。

(団体) 当事業体にはしっかりした技術を持った人材がいるので、外部の技術者に入っていたかなくても基本的にはサポートできると考えている。専門的なこともご相談いただければ対応できる。

(2) 団体B

ア プレゼンテーション

イ 質疑応答

(委員) 館長及び舞台チーフの指定期間中の配置換えの可能性について伺いたい。また、文化芸術事業パートナー制度だが、企業に依頼する際は当然料金が発生するものと思われるが、経費負担の見込みについて伺いたい。

(団体) 地域の皆様に親しまれファンになっていただける施設を目指しているので、コミュニケーションが良く、住民の方々と同じ目線に立ち、素敵な発表の場のできるスタッフを配置したい。基本的には指定期間中は人事異動なく配置したいと考えている。

パートナー先からは、1年で3名、5年で15名の受け入れを検討している。港北区の文化芸術向上に対する考え方にご理解をいただき、協議しながら極力経費の負担の少ない形をとらせていただく。

(委員) 稼働率や来場者数、利用料金収入伸び率の設定について伺いたい。

(団体) 港北区は、人口の伸びや新綱島駅開業による人口流入などから、稼働率・収入見込みは達成できると考えている。伸び率については、広報活動にノウハウをもっており強力に進めていくこと、また新しいことに取り組んでいくことからこの試算としている。

(委員) 若手アーティストの育成については、音楽関係を中心に育てようと考えているのか。

(団体) 音楽家の育成だけではなく、若手の人材育成に強いパートナーに人材を紹介してもらいながら、様々な分野の人材を取り込んでいくことを検討している。アートの分野でも取組を進めていきたい。

(委員) 代表団体の業績表の中から、雑収入の内容を伺いたい。

(団体) 様々な事業を行っている部分と他施設の指定管理などで雑収入を計上していると思うが、さらに詳しい話については、この場では詳細が分からず、回答は控えさせていただきたい。

(委員) 新たに引っ越してきた方々が気軽に参加できるように、利用を伸ばすための工夫やアイデアはあるか。

(団体) 港北区は若い世代、ファミリー層が多いので、子ども向けやゼロ歳から楽しめるようなプログラムを自主事業として推し進めていき、すそ野を広げていきたい。オープンスペースでの事業の工夫や、通常の貸出しとは異なるスタンスの貸出しも検討していきたい。赤ちゃんの駅として授乳室などで積極的に日常的に来場を促すなど、地道な活動もその方法だと考える。

(委員) 一般の方々からは、「施設の場所や活動内容も分からない」という声が聞こえてくる。新たにできる港北区民文化センターの特徴について、区民へ幅広く伝える状況、興味を持てる状況を作って欲しい。

(団体) 施設スタッフからの周知だけでは限界があるので、メディアパートナーに協力いただき、区内外へ広く発信するというのを念頭に置き、業務を推進していきたい。SNS、LINEを効果的に使って、施設を知らない人に知ってもらい、気軽に来てもらい機会を作る、ということの繰り返しだと考えている。また地域の方々との結びつきによる口コミも、大切である。

(3) 団体C

ア プレゼンテーション

イ 質疑応答

(委員) 地域コーディネーター及び舞台スタッフチーフの指定期間中の配置換えの可能性について伺いたい。

(団体) 地域とのつながりを大切とするため、極力異動はさせないつもりであり、会社都合の異動は考えていない。

(委員) 提案参加型事業のアーティスト概要についてと、登録アーティストの育成は、誰が行うのか。

(団体) ダンス、古典芸能、演劇等、それぞれを依頼するアーティストもほぼ確定している。また登録アーティストの育成は、団体職員自らが行う。

(委員) 運営には、何が最も大切であり、そのためには、何をすべきと考えるか。

(団体) 安全・安心して施設を利用していただくことが最も大切であるが、ミズキーホールには、さらに市民に親しんでいただくことも大切である。そのためには、区民主導のホール運営という意識に至るまで、区民と一緒に取り組んでいきたい。

(委員) 代表団体の令和3年、4年の決算書における営業損失の状況と、雑収入の内容について伺いたい。

(団体) コロナの影響によるイベントの中止やそれに伴う広告の中止等により、マイナスとなった。雑収入の内訳は、雇用調整助成金等である。現在は、イベントも再開されており、収支は全く問題ない。

(委員) 文化の専門家が運営に多く携わるということで、安心している。

(委員) オープニングに係わる宣伝方法は、どのようなことを考えているか。

(団体) 関心表明書を提出いただいている団体が多数あり、そのネットワークを活用してPRするとともに、SNSを活用してこまめな情報発信をすることで、地域の方々に興味、関心を高めていただく取組を考えている。

(委員) 登録アーティストと港北区民文化センターとは、どのような関係性を持つのか。

(団体) 開館のスタッフが、教え役となり、港北区ゆかりのアーティストを育てていきたい。他の区民文化センターでは、オーディションでアーティストを募集し、アウトリーチプログラムも一緒に行っている。

4 指定候補者及び次点候補者の選定について（非公開）

各団体の財務状況について、財務審査者より報告。

各団体ともに、財力、バランス等総合的に勘案した中で、港北区民文化センターを運営するにあたり、特に問題は無いとの報告を受ける。

各委員の評点を集計した結果は次のとおり。

順位	団体	点数
1	団体B（港北結マネジメント： 株式会社神奈川新聞社・相鉄企業株式会社）	904点
2	団体A（神奈川共立・日本管財共同事業体）	867点
3	団体C（横浜メディアアド・東急コミュニティー・ JSS共同事業体）	822点

【指定候補者及び次点候補者に関する講評】

○指定候補者（団体B）に関する講評

- ・メニューが豊富で、様々な角度から提案されていた。
- ・港北区の文化芸術の良い部分を残しながら、次世代のための新たな取組もあり、最も信頼のできる提案だった。
- ・代表企業には、メディア、SNSなど広報に強みがある。
- ・地域に寄り添った人材の配置等により、安定した施設運営も期待できる。
- ・館長候補者には、経験を生かし、幅広い区民のニーズを聞きながら、区民文化センターの運営に反映することを期待している。

○次点候補者（団体A）に関する講評

- ・提案内容も充実しており、分かりやすく丁寧なプレゼンテーションだった。
- ・豊富な実績・経験を有しており、団体の提案に対する考え、姿勢の部分は、高く評価できた。
- ・SNSや若い人に向けた情報発信力や、文化芸術を担う人材の育成などについても、優れていた。
- ・ただ団体Bと比較すると、安定した企画の中にもさらなる変化が不足していた点や、館長候補者が決まっていない点などにより、やや見劣りを受けた。

【総評】

応募のあった3団体とも、実績豊富で提案も優れており、どの団体が選定されても水準以上の運営が期待できる内容だった。選定評価委員会で議論し、厳正に審査をした結果、指定候補者を港北結マネジメント（株式会社神奈川新聞社・相鉄企業株式会社）（合計点904点）に、次点候補者を神奈川共立・日本管財共同事業体（867点）に決定した。

指定候補者には、提案の内容を着実に実行していただくことで、港北区の文化芸術の発信拠点となりながら、地域との連携により区民文化センターの基本理念「ハートでつながるわたしたちのまち」を実現する場として港北区民文化センターを運営し、港北区のさらなる文化芸術振興に寄与する役割を担っていただくことを期待している。

	<p>5 その他（非公開）</p> <p>講評、総評に基づき、報告書を港北区長に提出する。</p> <p>報告書と会議録は、事務局が作成し、委員長が確認をしたのち、各委員に確認を行う。</p>
<p>資 料</p>	<p>1 次第</p> <p>2 第2回横浜市港北区民文化センター指定管理者選定評価委員会について</p> <p>3 タイムスケジュール</p> <p>4 指定候補者の選定について（第1回委員会決定事項）</p>